徳富蘇峰関係資料2

徳富蘇峰と同志社教職員との懇談会（一九五三年十一月二十八日）

解題　伊藤彌彦

（解題）

この資料は、同志社大学社史資料センターで発見したもので、晩年の徳富蘇峰が同志社教職員と行った懇談会のエンピツ書き記録、を復元したものである。徳富蘇峰は同志社を戦後三回訪れたが、第二回目は「同志社創立七十八周年記念式」に出席して、新島先生愛用聖書の寄贈するための訪問であった。

一九五三年十一月二十七日、徳富蘇峰一行は、秘書塩崎彦市、次女徳富孝子（こうこ）（戦後悲境の蘇峰の身の回り一切を世話した人）および看護婦西野エイの三人をともなって、午後七時過ぎに京都駅に到着した。翌二十八日は朝十時から男子部運動場に一万余人の学生を集めて行われた七十八周年記念式典に列席し、式終了後十一時半から十二時二十分まで、神学館で教職員との懇談会をもったが、この資料はその懇談会の発言メモである。

なおその後、『同志社タイムス』昭和二八年一一月二八日によれば、二十九日午後には、校友会のリユニオンに招かれ（於：女子部体育館）、三時からは栄光館で近世日本百年史完成記念講演会『日本の過去、現在、未来』を一時間半にわたって語った。三十日朝には若王子墓地参拝、午後は啓真館で開かれた大学学友会と同志社熊本県人会共催の歓迎ティーパーティに出席し、約一時間にわたり、演説「新島先生を語る」、という多忙な日程をこなして、十二月一日十三時京都駅から帰東した。

新島襄手澤の聖書は、新島襄逝去の際、蘇峰がとくに八重夫人に所望して入手していたもので、「余が斯書に対する、実に先生に対するが如し。巻に向ふて髣髴靄然たる徳容眼中に入るを覚ふ」（「新島先生聖書の記」『家庭雑誌』明治二十六年五月）とあるように、恩師に対する強い思い入れもって所蔵されていたものである。聖書の中身については、杉井六郎「新島襄手沢、徳富蘇峰旧蔵、現同志社所蔵　新島襄愛用の聖書について」『徳

富蘇峰の研究』をご覧いただきたい。また現在では、聖書の全頁がPC上に一般公開されているので、誰でも見る事が出来る。

この座談会メモは、当時の総長事務室、田中良一秘書課長によるものと考えられる。急いで書き止められた形跡がみられ、音声を平仮名やカタカナのままでの記述や、書名、氏名の当て字、旧仮名遣い交じりの表記法も混在している。したがって採録に当たっては、原文通りに復元せず、旧字は新字にし、旧仮名遣いは新仮名遣いにした他、可能な限り正確な情報に補正したが、それら編集の文責は伊藤彌彦にある。なお、メモには標題が「教職員との―」としか書かれていなかったので、新しくタイトルを付しておいた。

文字の解読に当たっては、井ヶ田良治名誉教授、人文科学研究所田中智子先生、文学部小林丈広先生および社史資料センター布施智子資料調査員のご協力を得た、ここに謝意を申し上げたい。

徳富蘇峰と同志社教職員との懇談会（一九五三年十一月二十八日）

大塚〔節治総長〕司会　態々、聖書を渡す為お越し、先生一言教職員に語り度いとの希望で、此の会を設けた。この時間がずれたが、丁度よい時間であろうと思ってこの時間にきめた。

教職員もふえた。同志社も変った。新島先生の時代と変った。我等同志社に来て五〇年の者も〔新島〕先生を知らぬ、先輩からもう少しきく必要がある。

徳富〔猪一郎・蘇峰〕　イスで申上ぐるは失礼、年に免じてゆるせ。こちらから申すより皆さんから注文があれは申し上げたい。しかし、近頃はやりのツルシアゲはこまる。

住谷〔悦治〕経済学部部長　平民主義の言葉は徳富先生の造語か。

徳富　たしかに私が製造した。それでね、如何なる理由で「平民主義」を用いたかは、当時の世の中が非常に貴族趣味が多い。それがいかん。

民主主義と云えば、皇室中心主義と対立、それで平民主義と云った。真意はデモクラシーである。

住谷　酒井雄三郎[1]氏が『国民之友』に、最初のメーデーの通信をせり。

徳富　自分では、自分と異った意見の者とも親しくした。故に親しい人としょっちゅうケンカをしていた。友人の中江篤介〔中江兆民〕と親しかった、酒井と云うのは中江の門人。これは中江が困る程左の人。故に中江は「コレハ蘇峰君、キョートーでね」、と中江が辟易した。背のひくい馬場〔馬場辰猪?〕さんのような人、肥前の人でね。この人は、独乙の学者のうちで、井上〔馨〕侯の婿で都筑馨六が色々論〔『民政論』〕を書いた。すると酒井が『排曲学論』〔民友社、一八九二年〕と云うパンフレットを出した。これを出すのは西園寺〔公望〕

公が手伝った。西園寺公は故人にいつも加勢していた。伊藤〔博文〕公と一緒にいたが、出版費を用意した。ポケット〔マネー〕。〔酒井は〕パリで死んだ。自殺かあやまちか今もわからぬ。

住谷　都筑氏は同郷

徳富　あの人は私が焼討ちにあった時〔大正二年二月十日、「大正の政変」時の第二回国民新聞社焼打ち事件〕、逃げてこいと云った。今更、社員を残して逃げるわけにはいかぬ。

松井〔七郎経済学部教授か〕　柏木〔義円〕翁が云う、徳富先生が伝記を書く、宗教的な面は不適、と云って資料を柏木にやった。[2]　柏木は死んだ、書かずに。

徳富先生に是非、新島伝を書いてもらいたいと思う。色々徳富先生が御書きになると世にひろく出たると思う。（新島は著書が少ないので、福沢は多い）

徳富　私は新島先生が死ぬる時も、先生の伝記を書くと云った位だが、研究してみると、先生のことは宗教が七分、三分が後のこと。それで私は宗教方面のことには書きたいことがあるが、私の宗教に対する考と先生の考と一寸ちがう。対等の人間なら自分の主張を書くが、先生の宗教〔の〕ことを書くのはちがった意見では書けぬ。先生と同じ意見の人が書けばよいと思った。

モルレー卿はグラッドストーン伝を書いた。宗教的意見は両者異る、然しグラッドストーンは宗教が三分で政治が七分、故に書けた。先生に関することは伝記同様に随分書いた。故にこれは、先生をだましたことにならぬ。材料はいくらでもあげる。

宗教意見も違うが反対ではない。その関係はトマス・アーノルドが、マシュー・アーノルドを尊敬したことは、ラグビー・チャペルの詩と同じことだ。ついでがあれば読んでほしい。

田畑〔忍大学長・教育局長〕　それを一沢山書かれたことを、まとめて出版して欲しい。

徳富　だれか同志社の方でやって下さい。（拍手）

大塚　新島先生は尊敬のまとであるが、真にエライところについて少しおきかせ下さい。

徳富　そりや、これを話すと、「新島先生を語る」と云う話の話が空になる。三十日に話す。

大塚　三十日のことを広告、

小野〔則秋図書館主任。日本書誌学史の学者〕。図書館の小野。図書館に植木枝盛の蔵書あり。植木枝盛と新島先生と関係があったか、徳富先生との関係か。

徳富　私が植木を引っぱって来て話をさせたりした、それは私が関係をつけた〔明治二一年一一月、植木枝盛は同志社に来て演説している〕。或る時代の同志社の事件は私が全部関係した。

植木君は私の友人で、板垣〔板垣退助〕先生のブレイン・ト

ラスト。頭の進んだ男、陛下が朕と云ふなら　おれも朕と云う。荀子とか孟子の如き植子と云う本をつくり鼠子傳〔荘子傳?〕を大変称揚して、東洋に於ける社会党の根本であると云ったりした。普通の人間から金はとらぬ金持ちのみからとる。

　板垣さんも同志社に関係あり。これは私でなくて新島先生が関係を付けた。私は新島先生の紹介で板垣を知った。

小野　第二回国会初まると植木がトツゼン死んだ。真相は毒殺か。

徳富　そうじゃないと思う。〔私は〕高知で植木氏の家にも行った。当時の若い者のするようなことはしたと思う。

　廃娼は植木、私、島田三郎位か。長い演説をする（上手ではないが）長便所、仲々人とちがっていた。売る方のものを買うんだから、廃娼論者が買いに行ってもかまわぬ。廃止せねばならぬが、あるものは買ってかまわぬ、と云うような論をする人。根強い人。

秋山哲治〔法学部助教授〕『将来之日本』を御書きになられたが、現在、現在の日本をどう見られますか

徳富　それは明日。

住谷　国民之友社〔民友社〕から出た、『現時之社会主義』〔一八九三年〕は、先生か酒井雄三郎か。学界ではまだきめ手がない。

徳富　あれは、平民叢書に、深井〔英五〕君に書かせた。深井君は私のブレイン・トラストでね。英書がよく読めた、私が一冊の間に、三冊位よんだ。新〔刊の〕英書は、深井にまず読ませ、その要領を出版させた。当時は沢山出した。

　ロード・ブライスの『アメリカン・コンモンウエルス』は出るとすぐ私の方でとって高橋五郎に訳させて出した。すると三、四年後、鳩山和夫夫妻が米国に行ってエールでLL・D・をもらった。帰った時、国民記者が行って米国に何か変ったことがないかと問うたが、米国には近頃よい本が出来た『アメリカン・コンモンウエルス』。こんなものは、三、四年も前に出していると云った。人見一太郎が訳者となっているが、これは英語は下手。それで、高橋五郎に訳させて、人見の名を出すため人見の名をつかった。

　人見も何でも出来た人で、ザイイツ居士とは五郎君のこと、何でも知っている人で、それでわからぬことは、この人にきいた。

今谷〔逸之助文学部教授〕新島先生の留学時代はカルヴィン主義が隆盛、カルヴィンのことを先生が語られた?

徳富　先生は仰っしゃらぬ。

今谷〔W・S・〕クラークを招くに新島先生が関係あるか。

徳富　関係あり。先生はクラークの弟子なり。私が居るうちに同志社に来た。

　クラークは仕事帰、海上大学、船の中で大学をすると云う考をもっていた。と先生は云っておられた。

クラークはもちろん、シリー〔E.T.Seelye〕はもちろん、エドワード・パーク（アンドバア）の神学を先生は学んだ。

波多野〔正雄商業高等学校教諭、聖書担当か〕　新島先生の教えられた学科

徳富　それこそ何でも。デビスの代数　ガノー〔A. Ganot〕のフィジックス、ロビンソンのハルモニー・フォオ・ゴスペルズ、それやもう教えられないのは漢学位。先生は数学、理学とかサイエンスは大変好き。誤って宗教家になった。エンジニアに成れば大変な人物に成ったのだと思う。

文学の方は弟の〔新島〕双六がえらかった

中村貢〔同志社女子大英語英文学教授〕　先生が御入学の頃の英語を教えた人は誰でしょうか。何と云う方法で教えたか。

徳富　英語と云っても、同志社に始めて行われたのは熊本英語。それで同志社以外には通用せぬ浮田〔和民〕先生、その他のエライ人が居るが、皆他に行っては通ぜぬ。新島先生も困ったものだと思われたにちがいない。私が東京へ行って使ってみたがさっぱり通じぬ。これば□□□の熊本の『天路歴程』、などは教科書　先生は英語を教えられなかった。

大塚　戦争中私大を格下げすると云う。関西では皆格下げ。同志社でも理事会で大学廃止を

蘇峰　実は同志社のみならず、私学も新聞もつぶすと云う時代。えらい時代。桂〔太郎〕と云う人が居たが、桂は新聞を自分のものにする――と云うことをした。故に、桂の如くせよと東條〔英機〕に云った。私は東條を教育してやろうと思った。他の人は東條を敵とした。私は東條を正しく導いたら役に立つと思った。当時他の政治家は役に立たぬ、東條教育のため一冊本を書いた程。然し私の微力は及ばなかった。

戦（いくさ）のことは、五百年の後の判定にまちたい。[3] それで申し上げることを遠慮したい。東條は悪党ではないがやったことが間違っていた。

塩崎〔彦市、蘇峰の秘書〕　東條の秘書に赤松〔貞雄陸軍〕大佐　これは私の親友　陸相代理、電話でかねて先生から申出のあった同志社のこと[4]は承知したと云う電話があった。

大塚　明治四十五年に大学の看板をかけた。その背後には徳富先生が大に力を致された。そのいきさつを。

徳富　大がい忘れてね、折角ですが。その時分、水崎基一と云う先生が居て、私の門人古谷久綱、それ等の同級生が最も働いた。

今日はこれでつるし上げをこらえてもらいたい。私は新島先生の聖書をあげたが、私に一つ、机の上であけてよむ聖書をいただき度い。字が大きくて、読みよい、日本語でもよいが英語でもよい、欲を云えば両者　（以上）

（1）　酒井雄三郎（一八六〇―一九〇〇）　中江兆民の仏学塾に学び、一八九〇年農商務省からパリ万国博覧会に派遣せれた時、現地の社会問題

運動に関心を寄せ、評論記事を『国民之友』に送る。九二年帰国後、官を辞し社会問題研究会を結成、再度渡仏し、パリで客死。

高野静子『蘇峰とその時代―寄せられた書簡から』中央公論社、一九八八年、に略伝。

（2）「〔昭和二年〕九月十二日（月）　再ビ国民新聞社ニ至リ徳富氏ニ面会、〔新島〕先生伝編纂ニ付キ色々御話ヲキク、先生ヲ識ルニハ先生御愛読ノ聖書ヲムガヨカラン明日貸ストノコト。」飯沼二郎・片野真佐子編『柏木義円日記』行路社、一九九八年、四一九頁。

「九月十三日（火）　徳富氏ニ会ヒ色々話ヲキヽ、先生御手沢ノ聖書ヲ借ル。」同書、四二〇頁

（3）一九四九年、徳富蘇峰は多磨墓地の墓に、「百敗院泡沫頑蘇居士　待五百年之後」と墓誌揮毫していた。この「百敗院泡沫頑蘇居士」という戒名は、敗戦直後の一九四五年九月二日に、みずから誌したものである。

尚、蘇峰が同志社英学校在学中に敬愛していた漢学教師の村上作夫は、南禅寺天授庵の墓に「二百年後ノ世界ヲ待ツ」と刻していた。

（4）この蘇峰の申し出の件を伝える資料が社史資料センターで見つかった。田中良一の手記「蘇峰先生を回想する」のなかに以下のような記述がある。

「　五、東條政府と同志社

昭和十八、九年、国歩艱難と共に、同志社の歩みも困難を増し、我々下級の事務職員でさえ気持ちの上に得体の知れぬ重圧を感ずるように成った頃には、同志社は蘇峰先生から一層御高配を蒙るようになった。

昭和十九年、新島先生生誕百年の年を記念して再び日比谷で大講演会を催しに大いに気勢を上げたのも蘇峰先生の主唱指導に依ったものであったし、更にその後、同志社の立場を東條政府の当路者に正しく

認識せしむるため、先生は自から首相に会いに行って下さった。東條には口で説明して置くだけでなく、書いたものを手交して置いた方がよい、との先生の御注意で、牧野総長が東京の小石川台町の令息宅で、同志社立学の精神と、同志社の邦家に対する貢献、現状を述べたものを原稿用紙二枚に起草され、神田のYMCA投宿中の私がそれに統計数字を補筆して清書したものを蘇峰先生に届け、これが東條首相の手に渡った。

後で聞くと、東條首相は閣議中であったが、蘇峰先生が見えた、と云うので閣議を休憩し、廊下で先生に会った。（先生が何う云う言葉で同志社の事を首相に説かれたかは明らかにされてないが、）首相は、〝新島さんの同志社に対して何うのこうのと干渉がましい態度に出ることは政府でも軍でも曾つて考えたことはありません。また今後も左様のつもりはありません……岡部文部大臣をも呼びましょう……〟と云って岡部長景子爵と同席で、文部省の方針などを語った由である。」

（参考資料）

同志社創立七十八周年記念式次第

昭和廿八年十一月廿八日午前十時
於　男子部運動場

一、奏　楽　神学部助教授　遠藤　彰
一、讃美歌齊唱二三四（一、三、四節）　一同
一、聖書朗読　女子大学長　滝山　德三
一、祈禱　宗教部長　魚木　忠一
一、設立の始末朗読（抜萃）教育局長　田畑　忍
一、式辞　総長　大塚節治
一、新島先生愛用聖書の寄贈　德富猪一郎殿
一、校歌（英語一、二節）　一同
一、廿五年勤続者表彰
一、学制公布八十年記念式被表彰者披露
一、頌栄　五六八　一同
一、祝禱　神学部長　大下角一
一、挨拶　沖中忠一
一、後奏　神学部助教授　遠藤　彰

○勤続二十五年表彰者氏名

商学部長教授　原　猛雄
経済学部教授　木下八三
教務部職員　小林喜久雄
経済学部教授兼外事部長　松井七郎
短大英語科長教授　桜井忠一
（ABC順）

○学制八十年記念式被表彰者氏名

女子中高校嘱託　石塚多
高校嘱託　前窪勝之助
女子中高校嘱託　武田新太郎
（ABC順）

※式後引続き神学館礼拝堂で德富翁と本社教職員との懇談会を開催する

裏面に歌詞印刷

德富翁と同志社教職員との懇談会（一九五三年十一月二十八日）

同志社学報　六六号　（一一一―一一四七）